

茶病害虫防除情報

令和5年2月13日

【第7号】

鹿児島県経済連・肥料農薬課

主要病害虫の生態と防除シリーズ (5)

網もち病

発生と防除のポイント

古くから多発生していた病害であるが、全国的には少なくなっていた。しかし本県では最近発生が増加傾向で、激発園もみられる。多湿条件で発生しやすく、多湿で担胞子の形成、飛散、茶葉への侵入感染がおこる。主に秋芽に発生し、開葉した上位1～3葉位の新葉に感染し、40～50日後、11月頃に発病する。被害は発病葉の葉枯れ・枝枯れに進展し、葉層が荒廃し、翌年一番茶等の減収を招く大きな被害を生じる。

薬剤防除は秋芽生育期に炭疽病などと同時防除するが、9月初旬頃、秋芽生育後半の感染が多いので、この時期に追加防除も必要である。

発生生態

病原菌の種類	糸状菌・担子菌類 (エクハシテリウム レイキュラム)
発生の状況	山間地域、河川流域、日当たりの悪い山際園などで発生しやすい 最近平坦地でも発生
病徴と診断	初め、成葉の裏面に網目状の淡緑白色小病斑を生じる。 病斑は次第に拡大し、網目状の白い子実層を形成する。 葉表面の病斑は紫褐色を呈し、後褐色となる。 古くなると、子実層病斑部は黒変枯死する。 病斑(黒変病斑も)は進展し、葉柄から茎まで達すると枝枯れを起こす。
被害の様子	病葉は枯死落葉する。病斑は拡大し、葉柄から枝に進展し(赤葉枯病菌が二次寄生関与)、枝枯れとなり、枝条の枯死により茶園の荒廃を招く。一番茶の芽立ちが悪くなり、芽数が著しく減少する。 秋芽発病葉100～300葉/m ² で約10%、500～1000葉/m ² で30～40% 一番茶が減収する。多発すると被害が激しい。
病原菌の性質	発育適温：20～28℃(担胞子の形成・発芽) 発育湿度：高湿度を好む、97%以上の湿度で担胞子形成・飛散・発芽菌の性質：全寄生菌(生きた作物内でのみ生息) 担胞子は水中では発芽できず、感染できない。
伝染・感染方法	越冬：病斑組織周辺の比較的健全部 発生様式：春夏期に越冬病斑の黒変部周辺に子実層(担胞子)形成 → 一～三番茶芽に一次伝染・発病 → 越夏病斑 越夏病斑形成担胞子が秋芽に伝染 → 秋芽に発病 伝染：多湿時に担胞子が空气中を飛散して伝搬 感染：多湿条件で、主に気孔部から侵入
潜伏期間	小斑点の初期病斑発生まで約20日 典型的病斑発生まで50～60日

発消長 主に、秋芽生育期に感染し、10～11月頃に発病する。
 発病条件 秋芽生育期に、降雨が続き、湿潤な日が続くと発生しやすい。
 河川流域、山間地域、山陰の風通し悪く、陰湿な茶園で発生しやすい。
 樹勢旺盛園で発生しやすい。
 三番茶までの摘採園で、秋芽生育期が遅い地帯で発生が多い。
 品種と発生：「あさのか」「やぶきた」「あさつゆ」などは弱い。

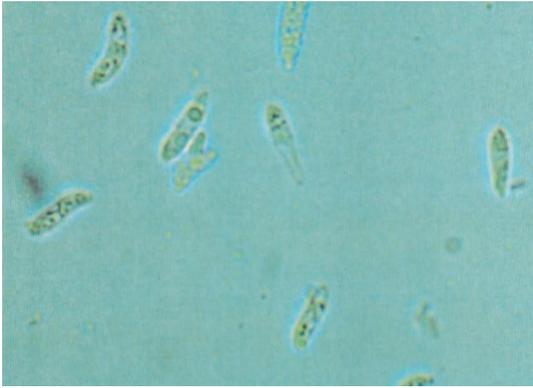
防除方法

- 防除のポイント
- ① 秋芽生育期に薬剤防除する。(炭疽病と同時防除可能)生育後半の防除が重要である。
 - ② 多発生園では、一番茶後に中切り、深刈等の更新を行い伝染源を除去し、また、被害の進展を防ぐ。
 - ③ 茶園の日当たり、通風を良くする。
 - ④ 特効薬の銅剤、DMI剤による2～3回の体系防除で防除する。

具体的防除方法

薬剤防除法

防除時期	農薬名	希釈倍数(倍)	使用基準	備考 注意事項
秋芽 1 葉期	ダコニール 1000	1000	10 日前 1 回	<ul style="list-style-type: none"> ・炭疽病と同時防除する ・米国輸出茶栽培使用可 ・有機栽培、輸出茶栽培可 ・「やぶきた」園などで同時防除では炭疽病に対し効果がやや劣る。
	フロンサイト SC	2000	14 日前 1 回	
	ベクトール水和剤	500～700	7 日前 2 回	
	【銅水和剤】			
	クワロソール	1000	前日—	
	コサイト 3000	1000	14 日前—	
	トイボルト A	500	14 日前—	
	フジトールフロアブル	500	14 日前—	
秋芽 3～4 葉期	【DMI 剤】			<ul style="list-style-type: none"> ・炭疽病と同時体系防除 ・米国輸出茶栽培使用可 ・米国輸出茶栽培使用可
	インダールフロアブル	5000	7 日前 2 回	
	オンリーワンフロアブル	2000	7 日前 2 回	
	スコア顆粒水和剤	2000	7 日前 2 回	
秋芽 3～4 葉期 (混用 1 回散布)	ダコニール 1000 +	1000	10 日前 1 回	<ul style="list-style-type: none"> ・炭疽病などと同時防除が可能で、殺虫剤と 3 種混用散布する。(秋芽 2 回目)
	インダールフロアブル又は	5000	7 日前 2 回	
	オンリーワンフロアブル	2000	7 日前 2 回	
秋芽 4～5 葉期	【銅水和剤】	同上		<ul style="list-style-type: none"> ・銅剤の追加散布が効果的 ・DMI 剤の連用は避ける
	【DMI 剤】	同上		



網もち病菌 担孢子



発病初期病斑 (感染 40 日後)



典型的病斑・子実層形成



病斑の葉表面 (紫褐色を呈す)



進展した病斑・褐変が始まる



進展した病斑の葉表面・褐色化する



網もち病多発生状況 (11 月頃)



冬季に葉枯症状となった網もち病